

今のうちに、自宅が安全かどうかを確認しましょう!

スタート!

あなたがとるべき避難行動は?

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

*ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

■浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は**自宅に留まり安全確保することも可能**です。
■土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンションなどの上層階に住んでいる場合は**自宅に留まり安全確保することも可能**です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

いいえ

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。
(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル3が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。

はい

いいえ

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。
(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル4が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。

●問い合わせ 市防災対策課 ☎22-2235 FAX22-2248

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です。

知っておくべき5つのポイント

- ①避難とは「難」を「避」けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- ②避難先は、小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- ③マスク・消毒液・体温計が不足しています。できるだけ**自ら携帯**してください。
- ④市が指定する**避難場所、避難所が変更・増設**されている可能性があります。
事前に**防災ハザードマップ**や**市ホームページ**などで確認してください。
- ⑤豪雨時の屋外の移動は**車も含め危険**です。やむをえず**車中泊**をする場合は、**浸水しないよう周囲の状況などを十分確認**してください。



避難情報などの警戒レベルについて

昨年5月から市の発令する避難情報や、気象庁の発表する気象情報について警戒レベル1～5の運用が開始されています。

この警戒レベルについてよりわかりやすく伝えるため、警戒レベルの配色が変更されました。また、住民がとるべき行動について一部表現が改められています(下線部分)。警戒レベルの意味と住民がとるべき行動についてご確認ください。

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報など(市町村)	防災情報の例(気象台)
警戒レベル5	命を守るための最善の行動	災害の発生情報	・大雨特別警報など ・氾濫発生情報
警戒レベル4	<u>危険な場所から</u> 全員避難	・避難指示(緊急) ・避難勧告	・土砂災害警戒情報 ・氾濫危険情報
警戒レベル3	<u>危険な場所から</u> 高齢者、障がい者、乳幼児などとその支援者は避難、他の市民は準備	避難準備・高齢者等避難開始	・大雨・洪水警報など ・氾濫警戒情報 ・洪水警報
警戒レベル2	ハザードマップなどで避難方法を確認	—	・注意報 ・氾濫注意情報
警戒レベル1	最新情報に注意	—	早期注意情報